半世紀にわたる「問題| を、いま問い直す。

登校 50

ジェクト

をめぐって、時代ごとにどんな状況があり、

た。いったい「不登校50年」の歴史は何を語るのでしょう。不登校

親の会やフリースクールなどの市民運動が立ち現れてもきまし

方、

この5年は学校に行かない子どもたちにとって受難の歴史だった一

働き方などが、さまざまに問われてきた「問題」だったと言えます。

きました。それは、学校、教育行政、精神科医療、

家族のあり方

奥地圭子さん #47

開始し、不登校経験者、親、親の会、 どう対応されてきたのでしょうか。 購読者に限定したものではなく、無料で公開します。そのため、プ カイブにしていきます。インタビュー・寄稿は、 教員、学者、弁護士など、さまざまな関係者の生の声を集め、 ジェクトは、 不登校新聞社では、「不登校50年」を機に、 寄付によって運営します。 居場所・フリー ぜひ、 証言プロジェクト このプロジェクト 社会的意義を考え スクール、

のご支援・ご協力をよろしくお願いします。

2016年7月15日

全国不登校新聞社

開始以降とも言えます。この50年、不登校は「問題」であり続けて ながる「問題」として不登校が社会現象化してきたのは、この統計 する子どもは、学校制度とともに常にいました。しかし、 1 9 6 6 学 校 基 本 今年はそれから50年にあたります。 調 査 で 学校 嫌 <u>ا</u> 0) 統 計 が 開 学校を長期欠席 始 され 現在につ た 0)

は

プロジェクトチーム (統括:山下耕平)

関東チーム委員:奥地圭子、木村砂織、朝倉景樹、石林正男、加藤敦也、佐藤信一、 須永祐慈、関川ゆう子、野村芳美、藤田岳幸、前北海、増田良枝、松島裕之、山口幸子 関西チーム委員:山下耕平、石川良子、貴戸理恵、栗田隆子、田中佑弥、山田潤

どのように問題とされ

不登校 50 年証言プロジェクト

#47 奥地圭子さん

の統計を開始して、 お話しいただけますでしょうか るかと思います。まずは、 ただくことになったわけですが、奥地さんの不登 このプロジェクトの最終回に、 文部省 (当時) 質も幅も、 ちょうど50年にあたる20 不登校との関わり 1966年に「学校嫌 非常に深く広いものがあ 奥地さんに話し 0)

わりでも見かけることがなかったんですが、本屋さん は関わってきたことになります。 うど40年前のことです。ですから、約50年のうち40年 言うと半世紀ですから、 もの不登校からで、1978年のことだったので、ちょ 私が不登校に関わるようになったのは、 このプロジェクトを開始したわけですが、 ちょうど不登校が増え始めるころで、まだ私のま さすがに長い時間ですね。 70年代半ばというの 自分の子ど 16年

親として「どうやったら学校へ元気に

していました。この4年間、

不登校から学ぶことは

登校新聞を創刊しましたが、

そこでも不登校経験を持

1998年に不

人たちが編集部で大活躍することで、

への寛容度がだんだんに上がってきたのかなと思

になってきたと思います。私たちは、

なかった。

いまはだんだん当事者発信の時代

ちの子は登校拒否だったんです」とは、

なかなか言え

があるなかでは、「私は不登校してました」とか、

いたんですが、学校に行って当たり前という社会通念

そういうなかで、だんだん輪が広がってきたと思う ースクール全国ネットワークをつくりました。

んですね。

以前から、

当事者の発信は大事だと思って

すでに登校拒否を治すような本が置かれるよう て、戸塚ヨットスクールがマスコミに出始めた

#47 奥地圭子 ざん



(おくち・けいこ)

1941 年生まれ。4歳のときに東京大空襲に遭い、父の郷里広島で育つ。1963年、 横浜国立大学学芸学部卒。その後 22 年間、公立小学校教員。1984 年「登校拒否 を考える会」設立。1985年に東京シューレを開設。1990年、登校拒否を考える 各地の会ネットワーク設立(現在は NPO 法人登校拒否不登校を考える全国ネット ワーク)。1998 年、NPO 法人全国不登校新聞社設立。2001 年、NPO 法人フリー スクール全国ネットワーク設立。2006年学校法人東京シューレ学園設立。いずれ も代表理事、理事長を務めている。2007年東京シューレ葛飾中学校開校、2018 年3月まで校長。2012年「多様な学び保障法を実現する会」設立、現在まで共同 代表。2015年文科省「フリースクール等検討委員会」委員就任。

インタビュー日時:2018年9月6日

写真撮影: 今井睦子

聞き手:朝倉景樹 場 所:東京シューレ王子

を考える各地の会ネットワー 会」を始め、それから1年半経って、学校以外の居場所 そういうことじゃないんだと、自分の子どもの不登校 行けるようになるんだろう」と思っていたん 否を考える全国ネットワーク」)、 トワークをつくって(現在の名称は「不登校・登校拒 ういう活動がもとになって、 いかとなって、 子どもたちの活動の場があったらい 1984年に親の会「登校拒否を考える 85年に東京シュー 19 ク」という親の会のネッ 90年に「登校拒否 レを始めました。そ 2001年にはフ いじゃな

世の中の不登

) 年証言プロジェク

年ほどのことですね。 年ほどのことですね。 年ほどのことですね。

いろいろやってきてよかったなと思うところですね。が、それがやっと変わってきた。それは一番うれしい、のは、なかなか変えられない難しいことだったんです不登校に長く関わってきて、学校復帰が前提という

わが子の不登校

朝倉 そうしましたら、まずは親として不登校を体験

奥地 当時、私は教員をやっていて、ちょうど中堅どころになっていたころでした。自分の子どもが学校にころになっていたころでも思ってませんでしたが、家を転居して転校したことがあって、また、ちょうどいじめが広がってきたころでもあったんですよね。転校じめが広がってきたころでもあったんですよね。転校じめが広がってきた。とからかいやいじめの対象になって、とても学校に行きづらくなっていたんです。長男は、前の学校と比べて「学校の雰囲気がちがう。息苦しい学校だ」と言ってました。私の言葉で言うと、管理的な学校だったんです。班競争があったり、休み時間まで何をするか決まっていたり、お手洗いに行くのも背の順に並ばないといけなかったり、非常におかしなやり方をしていた。

も、長男は納得してないですから、手を後ろへ引っ込と言って、仲直りの握手をさせようとしたんです。でと言って、仲直りの握手をさせようとしたんです。でと言って、仲直りの握手をさせようとしたんですけど、て「やめろよ」って、最初は小さい声で言うんですけど、これから、いじめに対する先生への不信感があります、長男は納得してないですから、手を後ろへ引っ込も、長男は納得してないですから、手を後ろへ引っ込と言って、仲直りの握手をさせようとしたんです。で

得のいかないようすでした。 得のいかないようすでした。 にほうが謝らなきゃいけないんだ」って、まったく納たほうが謝らなきゃいけないんだ」って、事って、事の手を合わせて にい、ごめんなさい。これから授業中にケンカはしません」と先生が言って、「はい、お帰りなさい」と。 ときにワっと笑ったそうです。長男は、「なんでやられたほうが謝らなきゃいけないんだ」って、まったく納 にほうが謝らなきゃいけないんだ」って、まったく納

そういうことがあって、朝になると、熱が出るとからすると、へとへとになって帰ってきて、「お風呂入っらすると、へとへとになって帰ってきて、「お風呂入っらすると、へとへとになって帰ってきて、「お風呂入っらすると、へとへとになって帰ってきて、「お風呂入っらすると、へとへとになって帰ってきて、「お風呂入っらすると、へとへとになって帰ってきて、「お風呂入っらすると、へとへとになって帰ってきて、「お風呂入っらすると、へとへとになって帰ってきて、「お風呂入っらすると、へとへとになって帰ってきて、「お風呂入っらすると、へとへとになって帰ってきて、「お風呂入っらすると、へとへとになって帰ってきて、「お風呂入っらすると、へとへとになって帰ってきて、「お風呂入っらすると、へとへとになって帰ってきて、「お風呂入っらすると、へとへとになって帰ってきて、「お風呂入っらすると、へとへとになって帰ってきて、「お風呂入っらすると、へとへとになって帰ってきて、「お風呂入っらすると、へとへとになって帰ってきて、「お風呂入っらすると、へとへとになって帰ってきて、「お風呂入っらすると、

ないとできないぐらいでした。たら」「ご飯食べたら」と言っても、まずは寝てからじゃ

そこで、親としては「運動会の練習のときは見学させてください」とか、「疲れていたら早く帰してくだせてください」とか書いて先生に渡すんだけど、やっぱり先生さい」とか書いて先生に渡すんだけど、やっぱり先生められないんですよね。それで、必死にがんばって運動会は無事に終わったんですけど、運動会から帰って動会は無事に終わったんですけど、運動会から帰ってなくなっちゃったんです。トイレも這っていくようななくなっちゃったんです。トイレも這っていくような状態になってしまいました。

分の子どもを育てられないのは非常に情けない気がしからない。教師をやっていたので、教師がまともに自私も混乱して、ほんとうに何が起きたのか、よくわ

ると、 行ったりしてました。近所の奥さんには会いたくない の人の目もなんだか怖い気がして、ヒソヒソやってい からも気持ちをわかってもらえないと思ってね。近所 に行かない子の親の気持ちは、行っている子の親には、 ないの」とか、「もっとこういうふうに押せば大丈夫よ」 んですね、同じ学校ですから。 して、買い物に行くのも、わざわざ遠くのスーパーに なかなかわからないんだと思いますけど、当時は仲間 PTAの仲間からも「奥地さんが甘やかしたんじゃ 教師を続けていていいんだろうかとも悩みました。 言われるんですよね。あとから考えると、学校 何となく自分のことを言われているような気が

そういう状況は、どのくらい続いたんでしょう。

奥地 年ぐらいで、拒食症は3~4カ月でしたかね。 登校拒否そのものは、グズグズし始めてから2

70年代の状況は

朝倉 当時、 世間の登校拒否に対する見方は、どのよ

うなものだったんでしょうか。

奥地 点数競争もきつくなっているころでしたしね。 思っている。学歴社会になって、塾なんかも盛んで、 らで、78年というと、まだ3年ぐらいしか経っていな んな学校へ行って、そうやって大人になるもんだ」と いですかね。何か学校でつらいことがあっても、「み 不登校の子に出会ったのは、自分の子が最初でした。 いころですからね。私も教師をやっていましたけど、 当時だと、やっぱり理解不能なことだったんじゃな 統計上、登校拒否の数が増え始めるのは75年か

長だった渡辺位さんに会ったことでした。 局面が変わったのは、国立国府台病院の児童精神科医 ていいかわからなくて、いろんな病院をまわっていて、 すね。子どもが元気にならないんです。でも、どうし たお医者さんに、なかなかいい医者がいなかったんで たと思います。私の場合は、幸いにというか、行っ いの場合は医者に行ったり、相談所に行ったりしてい うやったら学校に行けるんだろう」と思って、たいが ですから、子どもが学校に行かなくなったら、「ど

国府台病院には、「希望会」という親の会があって、

ました。 そこに不登校のお子さんがいる親の方がいっぱい来て たいへんな状態に追いつめられて、やってこられてい いて知り合いました。みなさん、子どもが、なかなか

朝倉 だったんでしょう。 お子さんの在籍した学校からの対応は、どう

りもする。 「夫婦仲が悪いから不登校になるんだ」って言われた ては、夫婦の意見が分かれるんですよね。そうすると、 だって言うわけですよね。学校に行く行かないについ 先生がやって来て、やっぱり親の育て方の問題

めていた子も来る。そういうやり方はおかしいと思い そうしたら、毎日6人ずつ、機械的にやってくるんで ましたけど、でも、 もたちは自分の気持ちで来てるんじゃないから、 す。どうしてそうなるのかなと思ったら、「月曜日は ない」と私に言ったので、それを先生に伝えたんです。 1班が行きましょう」とか決めていたんですね、子ど それから、子どもが「友だちと会えないのがつまん 最初のころは、友だちが来てくれ いじ

> 来てくれるのもいいか悪いかわからないよ。帰るとき かった」と話していたんですよね。 ないかってなるし、それは縄がよじれるように苦し 東通りにならないと、待っていたのに来なかったじゃ は、かならず学校に来るようにって言うし、それが約 るのはいいことじゃないかと、私も思ってました。 ところが、子どものほうは、渡辺先生に「友だちが

えたかったのに、私はすぐに解決を求めていて、それ 初めて気がつきました。 私は渡辺先生に会って、それから希望会に出会って、 子どもの側に立つというのは、なかなか難しいですね。 が子どもの気持ちをより苦しめる結果になっていた。 は友だちと遊べなくてつまんないって気持ちを親に訴 のも先回りをしていたんだなと気づきました。子ども それを横で聞いて初めて、私が先生に頼みに行った

もに何かをやらせようとしてしまっていた。 はできている」「ふつうは」というところから、 ついたんです。どうしても、「こうあるべき」「みんな ほんとうには子どもの側に立てていなかったなと気が いたわけです。だけど、自分の子が不登校になって、 教師をやっていたころも、子どもが原点だと思って

行くしかない。 では、 おが家の場合にかぎらず、当時の不登校の人たちは まりましたが、当時は、学校へ来られないなんてお がしい、怠けだと思われて、戸塚ヨットスクールみた いなところに入れられることもありましたからね。あ と、当時は山村留学も流行ってました。山村留学とい で、 他人の飯を食わせて、その村の学校に行かせるという ようなことですね。子どもは希望していないんだけど ようなことですね。子どもは希望していないんだけど ようなことですね。子どもは希望していないんだけど ないない。

渡辺位さんとの出会い

朝倉 渡辺先生とは、どういう経緯でつながったんで

う雑誌の編集部に持って行ってたんです。そうしたら、奥地 自分の教師としての実践記録を、『ひと』とい

れていた。
北から1973年に創刊された教育誌。2000年8月まで刊行さ郎社から1973年に創刊された教育誌。2000年8月まで刊行さいた。

よね」みたいな話をしていたんですね。

辺位先生が一番子どものところから考えている先生だな先生がいろんなことを言っているけど、やっぱり渡

見ただけで「いらない」と言ったりで……。 見ただけで「いらない」と言ったりで、いらない、子どもが拒食症の真っ最中で、藁にでもか、さまざまな料理をつくってみたりしたんだけど、ほんとうにちょっと箸をつけるとか、りしたんだけど、ほんとうにちょっとり、子どもがおいしいと言っていたレストランに行ってみたり、好きだった食で、場んとうにあらゆる工夫をしました。田舎から好きなものを送ってもらったり、子どもがおいしいと言っていたレストランに行ってみたり、好きだった食で、夢にでもられたけど、ほんとうにちょっと箸をつけるとか、見ただけで「いらない」と言ったりで……。

よ」と言ったんです。ほんとうは、その通りなんでしょなんともなんないじゃないか。そういうのとはちがうなんともなんないじゃないか。そういうのとはちがうまでも、東大病院とか墨東病院とか、かかりつけのまでも、東大病院との世界がよい」と言うんです。それところが、子どもは「行かない」と言うんです。それで3ヵ月待って、やっと受診日が来るわけです。

よ」と言って、行ってくれたんです。と言って、行ってくれたんです。「1日ならいいき合うつもりだったんでしょうけど、「1日ならいいき合うつもりだったんでしょうけど、「1日ならいいないと思っていたんですね。ですから、必死に説得せないと思って、行ってくれたんです。

1日しか来ないって言ってるんですけど」と言ったら、1日しか来ないって言ってるんですけど」と言ったら、渡辺先生はあっさりと「今日1日だけ来たかったのね、わかりました。じゃあそうしましょう」と言われて、わがりました。じゃあそうしましょう」と言われて、わざんは、あちらのソファで座って聞いていてください」というところから始まって2時間ですね。初診者は10時から12時の2時間と決まってたんです。そのあいだ、子どもは話しまくってました。

した。私も、学校の管理教育はおかしいと思っていたか、自分の納得のいかなかった話をたくさんしていま自分でない気がする」と言うんですね。班競争の話とで学校に行けないかというと、「学校に行くと自分がこともあって、それは私の先走りだと。それで、なんこともあって、それは私の先走りだと。それで、なん

うに思います。
が渡辺先生に話すのを聞いていて、初めてわかったよが渡辺先生に話すのを聞いていて、初めてわかったよでいたことで子どもを追いつめていたんだと、子ども

その2時間が終わったら、子どもがうーんと背伸びをして、「お母さん、羽が生えたようにいい気分になったよ。こんないい気分、何年ぶりだろう」と言って、「おたよ。こんないい気分、何年ぶりだろう」と言って、「おにぎり食いてえ」って、自分から言ったんですよね。もちろん言わないし、食べてくれなかったわけでしょもちろん言わないし、食べてくれなかったわけでしょもちろん言わないし、食べるって言ったので、すっ飛んう。それが自分から食べるって言ったので、すっ飛んって、ぜんぶにぎったら、2皿できちゃったんです。もう、びっくりして。それがお昼ご飯だったので、おいしい」って、ぜんぶ、たいらげちゃったんでい、おいしい」って、ぜんぶ、たいらげちゃったんです。もう、びっくりして。それがお昼ご飯だったので、おいしい」って、ぜんぶ、たいらげちゃったんでか、おいしい」って、ぜんぶ、たいらげちゃったんです。もう、びっくりして。それがお昼ご飯だったんです。それはほんとうに、目の鱗をとられるような本食ごして。

僕は僕でよかったんだね

学校に行けるようにならなきゃ。でもできない」と思っ 拒否が始まって、そのときで5年生。親も一生懸命やっ まっていた。それは何だろうと、自分の考え方や子ど たのに、逆に「こんな自分ではダメだ」と思わせてし としてでも元気になってもらいたいと思ってやってき 間話しただけで子どもがそう思えた。親のほうは、何 た」って思えたというのが、ちょっとショックだった ていた。それが、渡辺先生に会って「僕は僕でよかっ ダメだ、早く元気になって、早くみんなと同じように ているんだけど、子どもからすると、「こんな僕じゃ は2年間ぐらい悩んでいたわけです。3年生から登校 ていました。それでハッとしたんです。それまで、親 たんだね。渡辺先生に会ったら、そう思ったよ」と言っ もへの関わり方をふり返らざるをえなかった。 んです。いくら専門家といっても、たった1日、2時 子どもはそのとき、「お母さん、僕は僕でよかっ

それまでは、どうしても学校を中心に考えていて、みそこで発見したのが、「わが内なる学校信仰」です。

親の育て方が何か悪かったのかと思っていたんです。るんだからって考えていたんです。それで、やっぱりり管理的だったり問題のある学校でも、みんな行ってんなと同じようにできてあたりまえ、いじめがあった

だけど、渡辺先生は、みんなが学校に行っているとか、ふつうはこうしているというのは関係ないんでか、ふつうはこうしているというのは関係ないんでか、ふつうはこうしだというわけです。腐ったものを意べて下痢をしなかったらおかしいように、一見、正常でやないように見えるかもしれないけど、その子にとってはそれは必要なことなんだと。そういう考えにとってはそれは必要なことなんだと。そういう考えにも、子どもの動きや言葉に対して、拠って立つ位置がも、子どもの動きや言葉に対して、拠って立つ位置がちがっていたんでしょうね。

いろいろやってきて、でも、なかなか学校は変わらなたらこうでしょ」とか言って、校長とケンカしたり、いっしょじゃないかと思ったんですね。私も、さんざいっしょじゃないかと思ったんですね。私も、さんざいっしょじゃないかと思ったんですね。私も、さんざいるいろやってきて、でも、子どもが学校に感じたことはているいろやってきて、でも、なかなか学校は変わらないろいろやってきて、でも、なかなか学校は変わらないろいろやってきて、でも、なかなか学校は変わらないろいろやってきて、でも、なかなか学校は変わらないろいろいろやってきて、でも、なかなか学校は変わらないのでは、

い。そういう学校の体質や物の考え方に対して、子どい。そういう学校の体質や物の考え方に対して、子どもがこういう反応を示すのも当然じゃないかって。そとってよくなかったら、よくないんだと。そもそもはとってよくなかったら、よくないんだと。そもそもはとってよくなかったら、よくないんだと。そもそもはとってよくなかったら、よくないんだと。そもそもはとってよくなかったら、よくないんだと。そもそもはとってよくなかったら、よくないんだと。そもそもはとってよくなかったら、よくないんだと。そのことに気がつかないで、とても子じゃないかと。そのことに気がつかないで、とても子じゃないかと。そのことに気がつかないで、とても子どもの学が権利の体質や物の考え方に対して、子どいったがして、方にないないが、

ないと思います。そこからは、私はブレていよく「奥地さんはブレないね」って言われますが、

希望会で学んだこと

のであれば、「続けて行かない?」ってことになりそりですか? お子さん自身にとって、とてもよかった朝倉 お子さんが渡辺先生と会ったのは、その一度き

うに思いますが

なって、拒食症は治っちゃったし。になっちゃったから。ご飯もふつうに食べるように奥地 でも、必要がなくなっちゃったんですよ、元気

「僕は僕でよかったんだ」と思えたのと、家のなかの考え方が変わったこともあって、子どもはどんどん外へ出るようになったんです。それまでは、車に乗せ外へ出るようになったんです。それまでは、車に乗せないんでしょうね。こっちはそれが歯がゆくて「学校ないんでしょうね。こっちはそれが歯がゆくて「学校ないんでるからって、堂々と乗っていればいいのよ」って言うんだけど、「うん」って言いつつも、頭は下がってるんですよね。だけど、渡辺先生と会ったのを境に、てるんですよね。だけど、渡辺先生と会ったのを境に、さんだとか図書館だとか、学校のある時間でも堂々とさんだとか図書館だとか、学校のある時間でも堂々とさんだとか図書館だとか、学校のある時間でも堂々とさんだとか図書館だとか、学校のある時間でも堂々とさんだとか図書館だとか、学校のある時間でも堂々とさんだとか図書館だとか、学校のある時間でも堂々と表していたんですね。

も自信をなくして、「教師をやっていてもいいのかな」不登校だなんて人に言えないし、なんとなく子育てには、私自身もどこか引け目を感じていて、うちの子がそのときに、私自身も変わってるんです。それまで

問題じゃないかって思えたんです。れは自分の育て方の問題じゃなくて、みんなで考えるという気持ちでいたんです。でも、その日を境に、こ

それからは、教育研究集会だとか、PTAの集まりだとかで、子どもにとって学校はどうなっているのか、教育そのもの親がどういう考え方をしているのか、教育そのものをどう考えたらいいのか、「うちの子が登校拒否して、発言していったんですね。それは、ぜんぜん恥ずかし発言していったんですね。それは、ぜんぜん恥ずかしい問題じゃなくて、子どもがよくそういうことを感じたなと思って、学校が変わらないとダメですよねって、たなと思って、学校が変わらないとダメですよねって、たなと思って、学校が変わらないとダメですよねって、あちこちで言うようになったんです。

身のことをどう考えているかは、子どもの状態にも相身のことをどう考えているかは、子どもが東にもになったんですね、電車のなかで、「子どもが東にも親が引け目を持たなくなったことと、子どもの状態は親が引け目を持たなくなったことと、子どもの状態は親係ありますか」ってきいたら、「おおいに関係あるんじゃないですか。そういう親子はよく見ますよ」った。おっしゃったのね。私の経験からも、親が自分自て、おっしゃったのね。私の経験からも、親が自分自て、おっしゃったのね。私の経験からも、親が自分自て、おっしゃったのね。私の経験からも、親が自分自分に渡辺先生といっしょ

15. よい リンス だります。 当関係あるかなと思います。

年後に休暇をとって参加していました。 回やっていたんですが、教師の仕事を持っていたので、 回やっていたんですが、教師の仕事を持っていたので、 をのころは月に2 の会に参加するようになりました。そのころは月に2 にかられ、国府台病院で開いていた希望会という親

て、みんな真剣で、ほんとうに勉強になりました。んですね。希望会では、親どうしで生の話を出し合っんですね。希望会では、親どうしで生の話を出し合ったりほど話をされたら、帰られるんです。渡辺先生は、希望会には、たまに渡辺先生が来られるんですが、

んな謎が解けてきました。

び起きると、相談の電話だったりね(笑)。「何ごとだろう、家族に何かあったか?」と思って飛よ。夜中の2時ごろにかかってきたこともありました。ようになって、朝5時ぐらいから電話が鳴るんでするようになって、朝5時ぐらいから電話が鳴るんでするようになって、対

悩みの深さに

朝倉 相談の電話を受けるようになったのは、なぜで

東地 みなさん困っておられたので、うちの電話番号を教えてたんですよ。いまのように個人情報なんて考えてる時代じゃなかったですし、何か役に立ちたいと思って。学校に電話されても困るから、家の電話番号思って。学校に電話があって「ごめんなさい、起こし朝5時ぐらいに電話があって「ごめんなさい、起こしちゃいましたか。子どもが寝なくて、朝方やっと寝てくれて、犬の散歩に行くからって外に出て、公衆電話なれて、犬の散歩に行くからって外に出て、公衆電話番号

すとかね。 施設に入れちゃったもののどうしたらいいか、とかね。 電話だけじゃなくて、職場を出ると門のところで待っ 夕食ができない。それで子どもが手伝ってくれたりね。 うんだけど、すぐ別の電話がかかってきて、なかなか をさして、ぎゅって傘を下に向けて歩くしかないんで ます外を歩けなくなって、晴れていても、いつでも傘 なって、男の子なんだけど乳房ができちゃって、ます あと、病気と診断されて病院に入れられて、薬漬けに んでいて、ご飯だけを届けているとか、子どもを矯正 もが占領して、親は近くに小さいアパートを借りて住 のでした。一家心中寸前だとか、3年ぐらい家を子ど やって見つけたか家に突然来られたこともありました。 ておられたり、駅のそばで会ってくださいとか、どう しているときにかかってきて「ちょっと後で」とか言 しかし、そのころの相談の悩みの深さは、相当なも

けいれたんです。それで、クラスの子たちは、その子クラスの子が全員で迎えに来たんですね。そのお母さんも、希望会に関わる前のことで、「学校に行けなくんも、希望会の財母さんの話ですけど、ある日、これは、希望会のお母さんの話ですけど、ある日、

奥地

を本にしましょうという話になったんです。それが 施設や病院に入れるかだったんですよ。それで、ほん 経って、通信も10年分あったので、ここまでのこと やかに暮らすようになったりね。その希望会が10年 ていたんです。家族のなかも、ごたごただったのが穏 会って、すごく元気になって、 とうにきつい状態になったお子さんが、希望会に出 『登校拒否・学校に行かないで生きる』(太郎次郎社 い。そういうようなことが、たくさんありました。 そのころの登校拒否への対応は、学校へもどすか 働いたり進学したりし

1983)という本です。

反響の大きさから

奥地 て、そのことがきっかけで不登校になって、結局は追 登校してもダメと言われて、何べんもやり直しになっ て、「校則だからしょうがない」と思って、散髪して ね。そのころは制服や頭髪の規則がものすごく厳しく 方の娘さんは、飛び降り自殺で亡くなられたんです 住んでいた都営アパートの部屋で開いてました。その いつめられて、亡くなられてしまったんです。 その編集会議は、希望会に来ていたお母さん

そうよね。その子からしたら、ひきこもらざるを得な



学校に行かないで生きる』 渡辺位編著/太郎次郎社 1983 年

くありましたね。 変えた最初の本だと思っています。反響は、 言ってくれました。私は、あの本は、不登校の流れを に座談できて、みんな自分の側からの意見をしっかり の中の状況が厳しかったですからね。それでも、無事 したね。やっぱり、いったん引き受けても、当時は世 んですけど、 出てくれる子をそろえるのがたいへんで ものすご

ぱい来ました。 す。ほかにも、 た。仲間に入れてください」と手紙をくださったんで さんが「こんな本があるんなんて、生きていてよかっ やろうとしていたんだ」と思ったそうです。 て、そこで、 たしかに、しぶきがキラキラして虹みたいになってい さん、滝の水きれいだね~」って言ったんだそうです。 飛び降りるつもりでね。そうしたら、子どもが「お母 日光の華厳の滝まで行ったという方がいました。滝に じゃないか。もう自分も生きる元気ない」と思って、 お母さんは「この先も苦しい目にばかり遭わせるん 2ぐらいの子が登校拒否して、村八分状態に遭って、 お手紙をくださった方のなかには、母子家庭で、 お母さんはハッと我に返って「私は何を 親の会に参加したいという手紙がい その お母

族で、「もし初めから自分が受けとめていたら、こん と言われたんです。 なことにはならなかったのに」って、すごく嘆かれて いて、「娘の供養になるから、うちに来てやってくれ 母子家庭で、 お母さんにとってはたったひとりの家

もないから、よせ」とか「そんなことをやっているから、 ことが続いたんです。書いたお母さん自身は、ほかの まったんですけど、その後、やっぱりやめますという 子どもがまともじゃないんだ」とか言われて、どんど れているんです。だけど、家族から「そんなのみっと 詰めることがないようにと思って、反省しながら書か 議をさせてもらいました。原稿の手記は20~30通は集 本に書いてくださった。 ん減ってしまって……それでも、 人たちが同じような苦しみに遭ったり、子どもを追い それで、しょっちゅう集まって、企画会議や編集会 何名もの方が、 あの

朝倉 この本には子どもの座談会も載っていましたね。

の座談会じゃないかと思います。 あれは日本で初めての、不登校の当事者どうし うちの子も出ている

力を持っているんだから、それで育っていく人も増え もっと子どもを受けとめる人が増える。子ども自身は 長)で、病院の外に親の会をつくろうと話し合ったん ね。それで、私と竹下ミドリさん(当時の希望会の会 る。だから、希望会は希望会として病院のなかでやっ 経験をいっぱい持っていて、いっしょに考えていけば、 です。こんなにたくさんの人が悩んでいて、私たちは 要するに、病院の患者でない人は受けいれられない いまも続いている親の会の始まりです。 ていくとして、病院の外にも会をつくろうと。それが、 くださったんだけど、病院長がダメだというんです。 病院としては、集団治療と捉えていたんでしょう そうです。それで、渡辺先生が病院にきいて

そもそもをどう考えるか

朝倉 会」になりますよね。「登校拒否親の会」とか、 そのときに、会の名前が「登校拒否を考える ほか

> は、どういう経緯なんでしょう? の名前もあり得たと思いますが、この名前にされたの

それは、 得ないですね。でも、子どもからすれば、まずは親に 思っていました。学歴社会がいっぺんに変わるわけは わかってほしいという気持ちがある。だから、まずは 行かないことを受けいれるなんて、そう簡単にはあり ないし、受験競争ばかりに関心のある社会が、学校に なことだけじゃなく、社会が変わらないとダメだと について来ることで、そもそもをどう考えるかが大事。 う名前にしたんです。対応をどうするかは、その考え が大事だということで、「登校拒否を考える会」とい 奥地 会の方向性としては、登校拒否をどう考えるか 私は、当時から、親がどう対応するかという個人的 みんなで考えないとダメなんじゃないかと。

朝倉 ひとりひとりが、そもそもを考えてい

親が考えることが大事で、

親の会を始めたんです。

奥地 登校は文化の森の入口』(東京シューレ出版2006) そう、そこが大事ですね。渡辺先生は、のちに『不

り方、社会のあり方、 という本を出されますが、そういう考え方ですね。不 登校・登校拒否って、 か、自分の考えとか、 口になるんですよね。 すべてに関わっていく。 親のあり方、勉強とは何ぞやと いろんなことを深く見ていく切 いまの学校のあり方、教育のあ

誰もが参加できるかたちにされたということでしたね。 なるほど。登校拒否を考える会は、希望会から、

うがいいと思ったんです。それと、社会が変わらない ことではなかったんですね。希望会のなかでは反対し 訴えたいと考えたんです。本を出したのも、そのひと たちは、自分たちだけではなく、誰もが参加できたほ りたいんだったらどうぞ」みたいな感じで。でも、私 なかでずっとやるのでいい。奥地さんや竹下さんがや た人たちもいました。「自分たちは希望会で、病院の つなんだけど、考える会をつくることによって、親が つながって、発信したり考えを広げたりしていこうと。 それで、ふれこみををつくるときに、会の規則が必 次々に出てきますから、社会にもっと広く問題を 希望会から登校拒否を考える会になったという

> く「親が悩んで集まって、傷の舐め合いをしてるんで 発足した当初から、そういう意識は持っていたんです。 しょう」みたいな悪口を言う人たちもいましたけど、 には「日本社会を変えたい」と書いてあるんです。よ 要だと言われてつくったんですが、その項目のひとつ

奥地 考える会の初期には、夜間中学の松崎運之助さ くれました。ただ、ほとんどは親でやっていたんです。 恒則さんとか、不登校の親じゃない人たちも協力して やす会」の八杉晴実さんとか、「数学塾むれ」の池見 ん(本プロジェクト # 28参照)とか、「わかる子をふ

塾でイキイキと学ぶ子たち

朝倉 その方たちとは『ひと』で知り合ったんですか?

奥地 線授業」だとか「落ちこぼれ」という言葉が出てくる をやっている人たちのつながりを、 す。それで「子ども支援塾ネット」という良心的に塾 なかで、受験塾ではない、補習塾も広がっていたんで いや、そうではなかったですね。当時、「新幹 八杉さんたちがつ

んかも来られていました。 さん (NPO法人フリースペースたまりば理事長) なさん (NPO法人フリースペースたまりば理事長) なくっていたんです。そこに内田良子さん (本プロジェ

でも、その塾の人たちに出会って、その実践発表を聞いて、ほんとうに真剣に子どもたちが学ぶとはどういうことか、どういう考え方でやる必要があるかを知るんです。学校では「落ちこぼれ」と言われて、怒られてばかりで冴えない顔をして元気がなくなっていると、それらの塾では、すごくイキイキと学んでいました。塾では、環境や教え方、その子を見る目がちがうんですよね。子どもを肯定的に見ている。それで、自と、子どものほうもすごい力を発揮する。それで、自

とってはどっちでもいいんです。そんなの、子どもにちがっていたなと思ったんです。そんなの、子どもに

フリースクールにつながる話で言うと、不登校の子ときに、そういう塾に出会っていたから、学校以外の学びでもいいと考えたかもしれません。それと、親の学びでもいいと考えたかもしれません。それと、親の会をやっていて、楽になった子たちが来るようになると、いっしょに遊んだりして非常に表情がいいんですと、いっしょに遊んだりして非常に表情がいいんですと、いっしょに遊んだりして非常に表情がいいんですと、いっよ。だこ行けばいいの? 明日から行くとこないよ。かう家は飽き飽きしたよ」って言われて、「あ、学校以外の場があればいいんだな」と思ったんです。そういう流れがあったのは、たぶん支援塾ネットの人たちを抵抗がなかったのは、たぶん支援塾ネットの人たちを抵抗がなかったのは、たぶん支援塾ネットの人たちを抵抗がなかったのは、たぶん支援塾ネットの人たちを知っていて、学校以外の学びが子どもに歓迎されていることを知っていたからじゃないかと思います。

東京シューレの始まり

じゃなくて、親・市民と言われていたのは、そのよう朝倉 奥地さんが東京シューレを始めるとき、親だけ

なつながりがあったからでしょうか

奥地 まあ、親の会をやっていたわけだから、親が中奥地 まあ、親の会をやっていたわけだから、親が中には、夜間中学や塾の人もちょっといたわけです。初には、夜間中学や塾の人もちょっといたわけです。初には、夜間中学や塾の人もちょっといたわけです。初いことは楽しいよって体感してもらいたいという思いるあって、講座もいろいろ楽しいものを用意して、数もあって、講座もいろいろ楽しいものを用意して、数もあって、講座もいろいろ楽しいものを用意して、数もあって、講座もいろいろ楽しいものを用意して、数もあって、講座もいろいる楽しいものを用意して、数には、夜間中学や塾の人もちょっというという独談を発行していた大学の先生でどもとゆく』という雑誌を発行していた大学の先生でどもとゆく』という雑誌を発行していた大学の先生でどもとゆく』という雑誌を発行していた大学の先生でというないでは、

朝倉すごい豪華ですね。

1年目は私ひとりで、ほかは、みんなボランティアで、目には西野博之さんにスタッフになってもらいました。きて、ひとりぶんの給料は払えるようになって、2年奥地 そうやってやっているうちに、子どもが増えて

月曜日の午前中はこの人、午後はこの人みたいにやっていたんですが、それでまずいのは、昨日あったことを今日の人が知らないからトンチンカンになったりして、子どもにとってよくないんですね。それで、誰か可して、支援塾で知り合っていた西野さんに来てもらうことになったんです。西野さんは2年間、スタッフうことになったんです。西野さんは2年間、スタッフうことになったんです。西野さんは2年間、スタッフまだ20歳ぐらいだったと思います。木村砂織さん(現在はまだ20歳ぐらいだったと思います。木村さんは「夜にれ」って、おっしゃったんですよね。そうやって、おっしゃったんですよね。そうやって、おっしゃったんですよね。そうやって、ちょっとずつ大きくなった感じです。

出ったり、うまく行くんだろうかと思ったりしていた 思ったり、うまく行くんだろうかと思ったり、 こころでしょう。それが子どもが朝から来 て、学校と並行して開いて、それでやっていけるのかっ て、学校と並行して開いて、それでやっていけるのかっ で、それは経営のことじゃなくて、はたしてこういう 思ったり、うまく行くんだろうかと思い というのかっ

ら自信を持ったというか、そういう感じでしたね。ら自信を持ったというか、そういう感じでしたね。時分を必ずだと思ったり、落ち込んだり、イラついたり、自然に帽子を脱ぐとか、横向きで、ずーっとみんが、自然に帽子を脱ぐとか、横向きで、ずーっとみんが、自然に帽子を脱ぐとか、横向きで、ずっとみんが、自然に帽子を脱ぐとか、横向きで、ずっとみんが、自然に帽子を脱ぐとか、横向きで、ずっとみんが、自然に帽子を脱ぐとか、横向きで、でっとなっていた子にないようによって、方ので、「おはよー!」って言って入って来るようになったり。そういう変化がすごくあって、下ああ、やっぱりしていた子に対していた。

フリースクールという名前は

はないですよね。 当時は「フリースクール」という名前で始めたわけで当時は「フリースクール」という名前で始めたわけでり、スクールの草分け」と言われていますけれども、明倉 東京シューレは85年に開設されて、「日本のフ

と後ですね。種類としてはフリースクールになるのか奥地 フリースクールと言い出したのは、もうちょっ

にかなりのエネルギーがかかっていたと思います。のひとつのかたちだと思いますが、そのころは、まだのひとつのかたちだと思いますが、そのころは、まだ交流の場」と言っていました。フリースクールは教育交流の場」と言っていました。フリースクールは教育

明するのは……。 朝倉 そうすると、世間に対してシューレのことを説

奥地 それが難しかったですよね。初期のころ、ある奥地 それが難しかったですよね。初期のころ、あるの教育委員会が突如、何のアポイントもなくやっての教育委員会が突如、何のアポイントもなくやっての教育委員会が突如、何のアポイントもなくやってきたんです。背広姿の人が3人で来て、突然ドアを開けて、「ここは何しているんですか?」って。当時開けて、「ここは何しているんですか?」って。当時開けて、「ここは何しているんですか?」って。当時間が記事にしてくれたんですが、それを読んだ北区の教育委員会がですよ。そう言われて、子どもたちが怯えたんですよな。それで私はカーテンを閉めて、子どもたちにはな。それで私はカーテンを閉めて、子どもたちにはなっていて」と言って、その人たちに入ってもらって奥にいて」と言って、その人たちに入ってもらって

をきくので、説明しました。「ここに来ているのは学ときくので、説明しました。「ここに来ているのは学ときくので、説明しました。「ここに来ているのは学ときくので、説明しました。「ここに来ているのは学ときくので、説明しました。「ここに来ているのは学ときくので、説明しました。「ここに来ているのは学ときくので、説明しました。「ここに来ているのは学ときくので、説明しました。「ここに来ているのは学ときくので、説明しました。「ここに来ているのは学ときくので、説明しました。

てきかれると、子どものほうも、うまく説明できないてきかれると、子どものほうも、うまく説明できないというのは、学校外の居場所というのは、とてもじゃないが始まるより来る時間が遅いですよね。10時とか11時とか、お昼過ぎに子どもが外を歩いていると、非常校が始まるより来る時間が遅いですよね。10時とか11に怪訝に思われるわけです。それで「何してんの?」ってきかれると、子どものほうも、うまく説明できないさいが出ます。そのころは、子ともが始まるより来る時間が遅いですよね。10時とか11に怪訝に思われるわけです。それで「何してんの?」ってきかれると、子どものほうも、うまく説明できないてきかれると、子どものほうも、うまく説明できないてきかれると、子どものほうも、うまく説明できないてきかれると、子どものほうも、うまく説明できないてきかれると、子どものほうも、

から、背負っているナップザックを投げ出して逃げから、背負っているナップザックを投げ出して逃げちゃったりね。そうすると、よけいにあやしまれて、追っかけられて、警察につれていかれたり。しかも、言わなかったりするんですよね。でも、それだと帰してもらえないので、とうとう言って、それで私たちが引き取りに行って、「何も悪いことしていないでしょう」と言って、つれて帰ったり。そういうことがよくありました。

クロンララとの交流から

スクールという言葉も市民権がないわけですよね。となることも増えていると思いますが、当時はフリーとなることも増えていると思いますが、当時はフリーなうことも増えていると思いますが、当時はフリースクールという言葉は市民権

わからなかったんですね。私自身は、すでにフリースまり知られていなかったわけで、それを使っていいかわからなかったのと、フリースクールという言葉もあぬか。 当時は、この場がフリースクールにあたるのか

「フリースクール」とは書いてません。「フリースクール」とは書いてません。「フリースクール研究会にもおいていない言葉で、社会的にどう受けとめられるかわれていない言葉で、社会的にどう受けとめられるかわれていない言葉で、社会的にどう受けとめられるかわからなかったので、最初のころのパンフレットにはわからなかったので、最初のころのパンフレットにはわからなかったので、最初のころのパンフレットにはいいらなかったので、最初のころのパンフレットにはいい。

て子どもたちと交流したんです。
て子どもたちと交流したんです。シューレで借りているのナットさんというスタッフが訪ねて来られて、初めのナットさんというスタッフが訪ねて来られて、初めのナットさんというスタッフが訪ねて来られて、初めて子どもたちと交流したんです。

ちで決めて、自分たちのやりたいことを自分たちでがうのに、いっしょのようだと言うんです。子どもたレとフリースクールはすごく似ていて、成り立ちはちシアトルから帰ってきた子どもたちが、何かシュー

にも発展していくんです。とか、ルールも自分たちで決めてやっていくとか。だから、シューレもフリースクールなんだね、みたいないを言っていたんです。それで、その後、日米フリースクール交流をしようとなって、子どもどうしの交流をしか、学校の教科書にとらわれないでやるやっていくとか、学校の教科書にとらわれないでやる

は、厳密にどこかで決めたわけではないんですよね。と言うようになったと思います。8年代は、あまり使っと言うようになったと思います。8年代は、あまり使っない』(教育史料出版会1989)では、すでにフリーない』(教育史料出版会1989)では、すでにフリースクールと言っているようですね。まあ、そのあたりない。 (教育史料出版会1989) では、おまり使っない。 (教育史料出版会1989) では、おおいんですよね。

子どもたちも闘っていた

と思います。何せ文部省の調査で、登校拒否の原因のして闘おうと思ったわけじゃなくて、自然にそうなっして闘おうと思ったわけじゃなくて、自然にそうなっとが解を解くのに闘っていたと思います。それは意識奥地 80年代の子どもたちは、世間の不登校への偏見

校の先生方が回答しているんですけどね。第1位は、毎年「怠け」だったんです。この調査は学

めて、 誰かが言って、「それやってみようか」となったんで 原因、小学校は家庭が原因」みたいに変わったんです。 記事にしてくれて、その翌年ごろから、文部省の調査 すごくたいへんでしたけど、それが世情に影響を与え たちがアンケートに取り組み始めたんです。アンケー 子どもの回答が集まるんじゃない」と言って、子ども れで、「そういうところを通してアンケートを頼めば 査したら、ちがうんじゃないの?」みたいなことを 怠けなのか?」とか言い出したんです。それで、「大 「怠けだって言われているけど、こんなに苦しいのに 聞を広げて、「このなかには俺も入ってるんだな」とか、 それには、びっくりしましたね。それと、 たんですよね。アンケート結果は、89年に毎日新聞が トを作成して、発送して、返ってきた回答を集計する。 人がやるとこうだから、登校拒否している子どもで調 88年のある日、子どもたちが会議用のテーブルに新 88年というと、学校外の居場所がポチポチでき始 親の会で知り合っている人もけっこういた。そ 不登校の理由が「怠け」から「中学生は学校が 東京都のア

ンケート項目もちょっと変わったりしました。

とですかね。 動を、親の会と不登校の子たちが担っていたというこ動を、親の会と不登校の子たちが担っていたというこ

東地 そうですね。親の会は各地にできて、つながり 奥地 そうですね。親の会は各地にできて、つながり 奥地 そうですね。アンケートの前に、最初 クールに来ていた子ですね。アンケートの前に、最初 に子どもたちが声をあげたのは、中野富士見中のいじ め自殺の後です。この件について、弁護士さんたち が自分たちの研究会でとりあげたんですね。そのとき、 が自分たちの研究会でとりあげたんですね。そのとき、 が自分たちの研究会でとりあげたんですね。そのとき、 たちの人間宣言」が出るんです。 学校に行っている たちの人間宣言」が出るんです。 学校に行っている たちの人間宣言」が出るんです。 学校に行っている たちの人間宣言」が出るんです。 学校に行っている たちの人間宣言」が出るんです。 学校に行っている たちの人間宣言」が出るんです。 学校に行っている たちの人間宣言」が出るんです。 学校に行っている

だけどこのままじゃ「生きジゴク」になっちゃうよ」とつづられていた。だった鹿川裕史くんが自殺。遺書には、「俺だってまだ死にたくない。*2 1986年2月1日、当時、東京都中野区富士見中学校2年生

その集会のとき、非常におもしろかったのは、集会の参加者で、ある教育大学の4年生が、「君たちは学の参加者で、ある教育大学の4年生が、「君たちは学なに行かないことを認めろって言うけど、義務教育なんだからおかしいじゃないか」と発言をされたんです。そうしたら、弁護士さんが「子どもの言ったんです。そうしたら、弁護士さんが「子どもの言ったんです。そうしたら、弁護士さんが「子どもの言ったんです。そうしたら、弁護士さんが「子どもの言ったんです。と補強してくれたんです。その学生さんが、帰りにアンケートを出してくれて、「今日は、僕は恥婦のにアンケートを出してくれて、「今日は、僕は恥婦のにアンケートを出してくれて、「今日は、僕は恥婦のとしっかり勉強します」と書いてあったのは、集会もの参加者で、「いやあ、やったかいあったね」って。

登校拒否は病気じゃない

新聞の1面トップに出ましたね。それに対して、私た症/早期完治しないと無気力症に」という見解が朝日1935―1996)の「30代まで尾を引く登校拒否奥地 一方で、88年には稲村博さん(精神科医/

が大勢発言してくれました。ちは抗議集会を開いたんですが、そこでも子どもたち

「何で入れちゃったんだろう?」と思ったり。 集会は教育会館で開いたんですが、ものすごい人が 来て、会場からあふれるほどでした。当時は、まだ登 来て、会場からあふれるほどでした。当時は、まだ登 来て、会場からあふれるほどでした。当時は、まだ登 来て、会場からあふれるほどでした。当時は、まだ登 来で、会場からあふれるほどでした。当時は、まだ登 来で、会場からあふれるほどでした。当時は、まだ登 来で、会場からあふれるほどでした。当時は、まだ登 来で、会場からあふれるほどでした。当時は、まだ登 来で、会場からあふれるほどでした。当時は、まだ登 来で、会場からあぶれるほどでした。当時は、まだ登

ありました。

のは、どこもおかしくもない、でも学校に行ってないがな、病院に入れられていたんです。しかし、だけの子が、病院に入れられていたんです。しかし、だけの子が、病院に入れられていたんです。しかし、

ていいじゃない」という反論も、けっこうありました。それに対して、「病者を差別している」とか「病気だっ校拒否は病気じゃない』というタイトルにしたんです。をまたま登校拒否について本を出すことになって、『登

でも、それは差別じゃなくて、学校に従っている子を異常ちを正常として、学校から距離をとっている子を異常として、それを病んでいると捉えることこそが誤解でとして、それを病んでいると捉えることこそが誤解でとはおかしいということを言ったわけです。それを変とはおかしいということを言ったわけです。それを変とはおかしいということを言ったわけです。それを変とか病気の人はダメだと言っているんじゃない。そういうことも、ずいぶん言わなきゃいけなかったですね。それまでは、戸塚ヨットスクールを始め、怠けで軟みったりから、そういう施設を利用する人はだんだん減ったりから、そういう施設を利用する人はだんだん減っていくことになったんです。

冤罪事件

トを学校に出させたんですよね。学校や教育委員会もが不登校の子を疑って、不登校している子どものリス京都足立区の綾瀬で母子殺し事件が起きたとき、警察奥地 もうひとつ、冤罪事件もありました。89年に東

唯々諾々と出しちゃって、3人の不登校の子が捕まったんです。弁護士さんたちが冤罪を晴らしてくれたんだけど、世間の目は冷たくて、結局、住んでいたところにいられなくなって、3人はバラバラになって、そろにいられなくなってけどね……。日本社会は、そういうによったんですけどね……。日本社会は、そういうところがおかしいですね。まったく罪じゃないとわかっても、世間の目が冷たいというのは何なんだって思います。

毎朝お経をあげないといけないとか。した。お祓いだとか言って、高い壺を買わされるとか、あと、80年代では、宗教がらみになることもありま

思われているなかで、不登校というのは何だかわからいうないことで、非常に問題扱いされてきたんですね。そういうなかで、当事者はとっても苦しんだんですね。そういうなかで、当事者はとっても苦しんだんです。した。そして、こんなのおかしいという動きをしていった。そして、こんなのおかしいという動きをしていった。そして、こんなのおかしいという動きをしていった。そして、こんなのおかしいという動きをしていった。そして、こんなのおかしいという動きをしていった。そして、こんなのおかしいという動きをしていった。そして、こんなのおかしいとかう動きをしていった。そして、こんなのおかしとなりもどもたっていると思うんですね。もちろん、渡辺位先生も生んでいると思うんですね。もちろん、渡辺位先生も生んでいると思うんですね。もちろん、海には、不登校の子どもたちが集ったという動きもありました。

朝倉 そうでしたね

つつはあったけど、総体としては、まだまだ理解しが的な教師やカウンセラーとか、そういう人も増えてきを学校へもどそうというのはおかしいと考える、良心奥地 80年代末ごろになると、登校拒否をしている子

いた。80年代までは、そういう時代だったと思います。ないという、根拠のない観念に子どもたちが縛られてたいという人が多くて、治さないと社会でやっていけ

文部省の認識転換は

朝倉 そうやって80年代に闘ってきて、90年代に入ると、文部省の学校不適応対策調査研究協力者会議の報告で「登校拒否はどの児童生徒にも起こりうるもの」という見解が示されて、「居場所」という言葉を文部という見解が示されて、「居場所」という言葉を文部されは、親の会や子どもたちの発言など、いろいろなそれは、親の会や子どもたちの発言など、いろいろなそれは、親の会や子どもたちの発言など、いろいろなでれば、親の会や子どもたちの発言など、いろいろなでいことにもなったのだと思いますが、このあたりでないことにもなったのだと思いますが、このあたりでないことにもなったのだと思いますが、このあたりでないことにもなったのだと思いますが、このあたりでは、文部省の大阪に関ってきて、90年代に入る

ように、不登校の捉え方を考え直す必要があるというた市民活動が意味を持ったからなんですね。それは、
をから知ったことですけどね。協力者会議の委員のないには、永井順國さん(本プロジェクト#25参照)の
のは、私たちがやってき

利かせていて、そこには、子どもの性格が悪い、親の問題:登校拒否問題を中心に」という手引き書が幅をと私が、会議のヒアリングに呼ばれたんです。それもを乱が、会議のヒアリングに呼ばれたんです。それも委員も入っていたわけです。それで、山下英三郎さん

すかね。 朝倉 あれは、稲村博さんの理論がベースにあるんで

育て方が悪いと、ばっちり書いてあったんです。

奥地 そうですね。それが、92年の報告書では、そこ 地底扱いや通学定期については、それを認めるかど とこれが、フリースクールなどへの出席を学校の出席扱いにすると につながるんです。ただ、相変わらず学校復帰が前 提ではあったんですよね。だから、学校以外の居場所 と記めると言っても、学校へもどるために役に立つん ですないかというような考え方が残っていたんですね。 とこと とい、フリースクールなどへの出席を学校の出席扱いにすると はではあったんですよね。だから、学校以外の居場所 と記めると言っても、学校へもどるために役に立つん ではあったんですよね。だから、学校以外の居場所 と記めると言っても、学校へもどるために役に立つん ですないかというような考え方が残っていたんですね。

いという状態が、ずっと続いてました。国がそう言ってくれているのに、同じ国なのにおかしよっては、なかなか認めないところも多かったですね。あっさりと認める学校も多かったですけど。地域にうかは校長裁量になっていて、シューレの関係では、

通学定期運動

尽力されたからだと思いますが。 棚ぼたで実現したわけではなく、奥地さんたちが相当したが、これも運動があったからですよね。けっして朝倉 通学定期が使えるようになったのは33年からです。

にでも起こりうる」とか出席扱いにすると言うのであ

したんです。子どもたちも自分たちが「通学定期だっしたんです。子どもたちも自分たちが「通学定期だっしたんです。子どもたちも自分たちが「通学定期だっしたんです。子どもたちも自分たちが「通学定期だっしたが協力してくれて、3万筆以上の署名が集まりまの人が協力してくれて、3万筆以上の署名が集まりました。

朝倉 3万6000筆ぐらいでしたかね。

奥地 堂本暁子議員(本プロジェクト#19参照)が窓口になってくれて、署名は2回集めて、子どもといっしょに持っていきました。3回目の署名運動にとりかかろうとしたところで、決まったんです。私、覚えてるんですけど、1993年3月19日、文部省から電話がかかってきて、「この4月1日から、通学定期を語がかかってきて、「この4月1日から、通学定期を高応します」と言うので、「え、あと10日ちょっとで、日本全国で使えるようになるんですか?」ってきいたら、「混乱は起きるかもしれないけど、その場合は文部省に問い合わせてくれ」ということでした。それを部省に問い合わせてくれ」ということでした。それを部省に問い合わせてくれ」ということでした。それを部省に問い合わせてくれ」ということでした。それを

が。 学定期が認められたのは、小中学生だけだったんです 進んだことにはなったと思います。ただ、このとき通 も、子どもの学ぶ権利を保障しようという動きが一歩

朝倉 それは、権利の伸張として大きな一歩だったと思います。ただ、フリースクールに通うことが認められることによって、一方では、あまり気持ちが進まない子どもに対しても、ともかくフリースクールにでもでこられるということで、親御さんがシューレにつれてこられるということもありましたね。それをきっかけに、ホームエデュケーションの運動・活動を始めることにもつながったと思いますが、そのあたりもお話ことにもつながったと思いますが、そのあたりもお話しいただけますか。

ホームエデュケーションを

学受験が心配という親御さんが多くて、そのためにぎをしないと、やっぱり高校受験が心配、その後の大いように見えて、そういう面も生みましたね。出席稼ぬ地 そうでしたね。出席扱いにするというのは、い

なったとたんに増えたんですよね。シューレに行きなさいみたいなことが、出席扱いに

実際、子どもに会っても、いやいや来ているなという感じがありました。東京シューレの唯一の入会条件う感じがありました。東京シューレの唯一の入会条件のにやってくるのは苦しそうで、「シューレに入らないといけない。入れない自分はダメだ」とか思っているのを、なんとかしたいなと。

変えたいよね、と。そこで、だいぶ考えて思いついたのが、ホームエデュケーションでした。アメリカやイギリスでは、ホームケーションでした。アメリカやイギリスでは、ホームとデュケーションという道があるのに、日本では、どエデュケーションという道があるのに、日本では、どれがよりに、みんな思い込んでいるから、そこを変えたいよね、と。

できるか話し合った。それで、つながりあうための雑たらいいだろうと話し合ったんですよね。シューレのたらいいだろうと話し合ったんですよね。シューレのいくような活動をやろう、具体的にどういう活動だっいくような活動をやろう、具体的にどういう活動だっいく、家で育つやり方を肯定していく、応援して

「ばる~ん」という名前になりましたね。最初は「いるか」という案だったのね。「どうしているか」とか「元気でいるか」の「いるか」。でも、何の雑誌だって思われちゃうかもしれないから、結局はの雑誌で出そうとなって、雑誌の名前は何がいいか考えて、

くれて、イギリスやアメリカに調査に行きましたね。んじゃないかということで、朝倉さんが連絡をとってに、諸外国の例をもっと日本に知ってもらったらいいに、諸外国の例をもっと日本に知ってもらったらいいいまでも、「ばる~ん」は月刊で発行されていて、いまでも、「ばる~ん」は月刊で発行されていて、

ションの子どもがほんとうに堂々と育っていました。奥地 そうでしたね。イギリスでは、ホームデュケー

あのころで何千人と言ってました?ないたので有一人と言ってました?は、どうして家にいると、暗くなったり、自信をなくなしたりするんだろうと思っていたので、ほんとうくなしたりするんだろうと思っていたので、ほんとうくなしたりするんだろうと思っていたので、ほんとうなしたりするんだろうと思っていたので、ぜんぜ私たちもホームステイさせてもらったんですが、学私たちもホームステイさせてもらったんですが、学

朝倉 8000人ですね。

がっていましたね。奥地 日本でも、あるグループがクロンララとつな

朝倉 300人くらい、いましたね。

ベースにして、いろんな社会資源を使っていく。 教育のあり方で、普遍性がある、むしろ日本が特殊な教育のあり方で、普遍性がある、むしろ日本が特殊な 教育のあり方で、普遍性がある、むしろ日本が特殊な

日本では、ひきこもりのイメージが相当強くて、「家田本では、ひきこもりのイメージが相当強くて、「家田本では、ひきこもっちゃうんじゃないの?」「社会に出られないよ」みたいなイメージが強いたがったんです。でも、だんだんに家で育つのがいいという人たちが出てきて、火付け役になるかなと思って、メリカとイギリスから来ていただいて、日本側からも、日本では、ひきこもりのイメージが相当強くて、「家田本では、ひきこもりのイメージが相当強くて、「家田本では、ひきこもりのイメージが相当強くて、「家田本では、ひきこもりのイメージが相当強くて、「家田本では、ひきこもりのイメージが相当強くて、「家田本では、ひきこもりのイメージが相当強くて、「家田本では、ひきこもりのイメージが相当強くて、「家田本では、ひきこもりのイメージが相当強くて、「家田本では、「おいいない」といいない。

朝倉 堂本暁子さん、山下英三郎さんにも登場してい

奥地 そう、それでシンポジウムを開いた。690人 奥地 そう、それでシンポジウムを開いた。690人 のところに900人くらい来てね。階段に人が たしい注目を集めたんですよね。

して活動し、シューレ大学のアドバイザーも勤めていた。 以後、学校には通わなかった。映画監督、メディアプロデューサーと以後、学校には通わなかった。映画監督、メディアプロデューサーと進と女優の左幸子を両親に持ち、祖父は歴史学者の羽仁五郎、祖母は*3 羽仁未央(はに・みお:1964-2014):映画監督の羽仁

では、どんどん発展するということにはならなかったでは、どんどん発展するということにはならなかったでは、どんどん発展するということにはならなかったでは、どんどん発展するということにはならなかったでは、どんどん発展するということにはならなかったなったりしています。だから、海外で言っている通り、ホームエデュケーションはあり得る話で、そういう道おもに通いでやっていると思いますけど、やっぱり日本社会おもに通いでやっていると思いますけど、やっぱり日本社会では、通いもあるし、家でやっていくのもあるしと、両面でやってきました。

子どもの権利として

朝倉 奥地さんは、その後、法律をつくることにも相 当尽力されてきましたね。その際、もともとはホーム エデュケーションを基盤に法律を起草するという話 だったと思います。そういう話が現実性を持ったとい うのは、やはりこの時期にホームエデュケーションの うのは、やはりこの時期にホームエデュケーションの がったと思います。そういう話が現実性を持ったとい がったと思います。そういう話が現実性を持ったとい がったと思います。そういう話が現実性を持ったとい がったと思います。その後、法律をつくることにも相

が大きかったように思いますが。

奥地 そうですね。子どもの権利条約が1989年に奥地 そうですね。子どもの権利条約について不登校の分野からも考で、子どもの権利条約について不登校の分野からも考で、子どもの権利条約について不登校の分野からも考で、子どもの権利条約について不登校の分野からも考で、子どもの権利条約について不登校の分野からも考で、子どもの権利条約について不登校の分野からも考で、子どもの権利条約について不登校の分野からも考で、子どもの権利条約について不登校の分野からも考で、子どもの権利条約について不登校の分野からも考で、子どもの権利条約について不登校の分野からも考で、子どもの権利条約について不登校の分野からも考で、子どもの権利条約について不登校の分野からも考してよる。

朝倉 96年の箱根大会でしたね。

から国連に報告するレポートづくりにも参加して、国子どもの権利条約は根拠になるということで、NGOの全国合宿に持ち込んだんです。それから、同時期に、奥地 まずは大田シューレで合宿をして、それを箱根

います。
ている人たちがいるということは追い風になったと思ている人たちがいるということは追い風になったと思すでも報告してもらいましたよね。海外で、実際にホー連でも報告してもらいましたよね。海外で、実際にホー

す。それが非常によかったんですね。 す。それが非常によかったんですよ」ということで、
「自分に合っているのは家なんですよ」ということで、
学校を始めて、これは不登校の子どもたちを支援する
学校を始めて、これは不登校の子どもたちを支援する
学校を始めて、これは不登校の子どもたちを支援する
学校を始めて、これは不登校の子どもたちを支援する
学校を始めて、これは不登校の子どもたちを支援する
学校を始めて、これは不登校の子どもたちを支援する
学校を始めて、これは不登校の子どもたちを支援する

がっていくんですね。障されるようにもっていきたいというところへつな障されるようにもっていきたいというところへつな

90年代に花開いた活動

かなりスケールの大きいことをやっていましたね。 朝倉 90年代半ばからは、シューレの子どもたちが、

「子どもたちでつくる」「子どものやりたいことを応援奥地」すごく、おもしろかったですよね。シューレは

始まったんですよね。

が、そこから次々と、夢みたいなことが実現していくんですよね。気球をつくったのが、1993年でしたね。全国子ども交流合宿をシューレで実行委員会をつくってやることになって、そのとき、自分たちで気球くってやることになって、そのとき、自分たちで気球らってやることになって、そのとき、自分たちで気球なってやることになって、そのとき、自分たちで気球なってから次々と、夢みたいなことが実現していくが、そこから次々と、夢みたいなことが実現していくが、

朝倉 91年に広島であった事件ですね。

奥地 子どもたちがふたり、瀬戸内海の島にある風の 奥地 子どもたちがふたり、瀬戸内海の島にある風の かけられた状態で閉じ込められて殺されてしまうという事件でした。その追悼として、「こういうことが二 たんですね。東京からもいっぱい参加して、第1回のたんですね。東京からもいっぱい参加して、第1回の 全国子ども交流合宿をその島でやったんです。その2 回目を東京シューレの子たちがやろうとなって、そこ 回目を東京シューレの子たちがやろうとなって、そこ で気球をあげようという話が出た。王子シューレの4

した(笑)。 いくらい、天井まで布だらけみたいな状態で縫ってま階にミシンを4台置いて、どこに人がいるかわからな

そのころ、たまたま長男が東工大の気球部にいて、てきてくれて、空気をあたためて気球がふくらんで、てきてくれて、空気をあたためて気球がふくらんで、お母さんは、いくらフリースクールに行っても、学校に行かないのはダメなんじゃないかと思っていたんだけど、気球があがるのを見て、涙をポロポロを流してけど、気球があがるのを見て、涙をポロポロを流してでは、布をなくしちゃったり、いろんな苦労もありましたけどね(笑)。

行こうとか、模型をつくってみようとか言っているうたら建てられるんだろう、建てた人のところに見学にと言い出して、最初は茶飲み話だったのが、どうやっした。また、ある子が「ログハウスを建ててみたい」りましたね。太平洋をまたいで、1カ月ほど旅をしまりましたね。太平洋をまたいで、1カ月ほど旅をしま

トンやっているのには度肝を抜かれました(笑)。 ちに、実行委員会ができて、場所探しをして、160 ちに、実行委員会ができている。

それから、鉄道好きの子たちが、実際に機関車をつくったこともありました。秩父の工場に見学に行ったり、自動車関係にお勤めのお父さんたちが手伝ってくり、自動車関係にお勤めのお父さんたちが手伝ってくり、自動車関係にお勤めのお父さんたちが手伝ってくかとか電気系統の勉強をして、溶接から何から、ぜんンとか電気系統の勉強をして、溶接から何から、ぜんンとか電気系統の勉強をして、溶接から何から、ぜんな取り組みながら学んでいってました。その機関車たときには出して、小さい子たちを乗せてくれているそうです。

クール的な学びだからできたことですね。これが学習長したり学んだりすることがあって、それはフリースそういうでっかい夢を実現するなかで、いろいろ成

を通して自分が学んでいくのもいいかなと思いますね。切れになってできない。いろんな学び方があると思い指導要領に沿った時間割があったら、どうしてもコマ

世界大会を東京で

日本開催なんかもありましたね。 朝倉 海外のことでは、大陸横断旅行やIDECの**

は何年でしたか? 尽力されましたが、第1回目のIDECに行かれたの尽力されましたが、第1回目のIDECに行かれたの

で、子ども3人と私で参加してきました。 朝倉 97年ですね。ウクライナで大会が開かれたとき

奥地 それで、もどってきて、すごくよかったと。「自

*4 International Democratic Education Conference: 1992年より毎年開催されている、世界各地のオルタナティブ教育関係者が交流する場。2000年には日本で開催された。

をやろう」と言いだしたんですよね。ないけど、お金のかかることだから、「日本で世界大会にいなことを言ってました。それで、みんなで行きたいなことを言ってました。それで、みんなで行きたいはひとつのあり方で、当然のことなんだよ」み界的にはひとつのあり方で、当然のことなんだよ」み界的にはなんぞや」とか、とても考えさせられて、「日由とはなんぞや」とか、とても考えさせられて、「日

です。 それで、99年にイギリスのサマーヒルスクールで開かれた大会に何人かで行って、そこで翌年の開催地に立候補したんですよね。そうしたら、「日本の子どもたちがすごいやる気だから、日本でやりましょう」となって、2000年に日本大会を開くことになったんなって、9年にイギリスのサマーヒルスクールで開

ユーラシア大陸の横断旅行も、ある子が「大陸横断 をしてみたい」と言いだして、いろいろ調べたり企画 したりして、シベリア横断鉄道に乗って、日本海から 北海まで行っちゃったんですよね。それも、子どもた ちにとって、ものすごい勉強になったと思いますね。 ポーランドでは、独立学校の子どもたち5人が、子 どもたちだけでやってきて、日本人をバスに乗せてく れて、ワルシャワとクラコフに泊まって案内をしてく れて、現かシャワとクラコフに泊まって案内をしてく

てくれて、その主体性にびっくりしたのを覚えてます。たくらいで、何から何まで、ぜんぶ子どもたちがやった。学校の先生たちは、最後にちょろっとあいさつし

不登校への圧力が減っていった

だと思われますか? ルの大きい活動が、たくさん花開いたのは、どうしてルの大きい活動が、たくさん花開いたのは、どうして

扱いや通学定期も、そのひとつですね。以前に比べたら、かなり対応が柔らかくなった。出席います。まだまだ学校復帰前提ではあったけれども、奥地 ひとつには、国がソフト化したことがあると思

時期じゃないかと思います。世界的に見れば、日本のように国が決めた学習指導要領のなかだけでやっているのが狭いのであって、グッこともあると思います。追い風が吹いていると感学校以外のあり方もありだなとなって、勢いが出たと学を以外のあり方もありだなとなって、勢いが出たとじました。9年代は、不登校への圧力が減っていったじました。9年代は、不登校への圧力が減っていった時期じゃないかと思います。

もうひとつには、経済的に、学校・大学を出たからといって、いいところに就職できるとかぎらないということが見えてきましたよね。バブルが崩壊して、不うことが見えてきましたよね。バブルが崩壊して、不況の深刻さが押し寄せてくるなかで、学歴の持つ意味が若い人に感じられなくなったということもあると思います。その結果、学校のレールに乗らなくても、そいます。その結果、学校のレールに乗らなくても、そいます。その結果、学校のレールに乗らなくても、そに、フリースクールでやれるわ」という感じが出てきた。子どもたちも、「自分たちでいいじゃん」という感じになって、親のほうも、学校にとらわれなくても感じになって、親のほうも、学校・大学を出たから感じになって、親のほうも、学校にとらわれなくても感じになって、親のほうも、学校にとらわれなくても感じになって、親のほうも、学校にとらわれなくてもいっている。

フリースクールのネットワーク

ルのネットワークができましたね。 まって、親の会のネットワークに加えて、フリースクー2001年にフリースクール全国ネットワークが始 先ほどIDECの話もありましたが、その翌年

対応するか、なんですね。でも、子どもがほんとうに奥地 親の会で話されるのは、基本的に不登校にどう

くフリースクールというのは、学校教育にはない新し ちもいるわけです。そういう子どもたちとつくってい じゃないかと思ったんですね。 い要素を持っていると思います。そこが役に立つん 自分を発揮するためには、学校以外の場を求める子た

のに、 とが大事じゃないかと思ったんですね。 どんなに一生懸命やっても、その枠の範囲でしかでき り限界があって、学校以外が必要で、それを選べるこ て、相当いろんなことをやったんです。でも、やっぱ 年間、教員として学校のなかで学校を変えようと思っ ない。子どもの個性や可能性は、もっといろいろある 日本は学習指導要領1本ですから、学習上の工夫を 学習指導要領に縛られてしまっている。私も22

やすいようにしたい。それは、子どもたちの学ぶ権利 しても、フリースクールの存在を認めさせて、活動し なかなか継続していくのがたいへんなんですね。そう お金が出ないので、どんなによい活動をしていても、 がそこで保障されるということです。少なくとも学校 ルどうしがつながって、国に対しても、地域社会に対 いう状況を変えていかないといけない。フリースクー しかし、フリースクールの何が難しいって、公的な

と対等に保障されるようにしたい

ということが、非常に大事だと考えています。いろん うにしていく必要がある。 な育ち方ができて、しかもそれが不利益にならない ブな教育のあり方が多様にあって、そこで育っていく フリースクールにかぎらず、いろんなオルタナティ

開こうなんて言わなかったら、もうちょっと遅れてい 動はつながっているんです。子どもたちが世界大会を をつくる素地になったんですよね。だから、ずっと活 クができたんです。そのネットワークが、新しい法律 走りまわってくれて、フリースクール全国ネットワー ですね。僕は時間があるからやりましょう」と言って、 ない?」って声をかけたんです。「それはおもしろい 委員をしていたある青年に、「ネットワークをやる気 という機運があったので、シューレでIDECの実行 たくさん集まった。そこで、つながって何かやりたい リースクール関係者や、教育について考えている人も には、世界中の人たちが集まってくれて、 は、2000年のIDEC東京大会でした。この大会 フリースクール全国ネットワークをつくるきっかけ 日本のフ

不登校新聞創刊

朝倉 号外を出して、 したね。 IDEC東京大会では、不登校新聞でも毎日 情報発信ということでも尽力されてま

始まる夏休み明けに、苦しくて自殺してしまう子たち きっかけになったのは、97年9月の自殺問題なんです きて、実際には学校以外の育ちもできるのに、学校が はもう動かないといけないと思ったんです。その時点 た」ということでした。そういう報道に接して、これ たちは「学校が燃えたら学校に行かなくてすむと思っ す。筑波では中学校の体育館が燃えて、火をつけた子 がいる。 すよね。12年間やってきて、フリースクールも増えて で、85年のシューレ開設から12年は経っていたわけで ではガソリンをかぶって焼身自殺した子がいたんで の年の9月、静岡で鉄道自殺をした子がいて、淡路 ね。毎年、夏休み明けは気がかりだったんですが、そ 不登校新聞は98年に創刊したんですが、 もっと、 「学校は休むことができるよ、

> ことも多くて、それだったら協力しなきゃよかったと 見ているし、こちらの一番言いたいところを報道して たんです。 ディアを持って、もっと自分たちで発信したいと思 いうことも、よくありました。そこで、自分たちのメ くれるわけじゃない。ちょっとちがうように書かれる は自分たちの観点とはちがうんですよね。学校中心で てきたわけですから。だけど、やっぱりマスメディア もないなかで、マスメディアのおかげで情報発信でき 以外もあるんだよ」って知らせなきゃと思ったんです。 私たちはマスメディアには感謝しているんです。金 0

り、広報していただいたり、ボランティアで担ってい クの世話人の方たちには、通信局になってもらった 理事になってもらいました。ほかの全国ネットワー 阪の山田潤さん(本プロジェクト#46参照)に会って、 いいと思って、名古屋の多田元さん(弁護士)と、大 います。まずは、東京、大阪、名古屋に局を置けたら すね。それがなかったら、創刊できていなかったと思 いたので、その協力を得て、不登校新聞はできたんで ただきました。みなさん不登校の状況をよくしたいと それで、すでに親の会の全国ネットワークができて

て、いまは編集長です。
に、飛行機の機内で声をかけてきて、「僕、新聞やりに、飛行機の機内で声をかけてきて、「僕、新聞やりに、飛行機の機内で声をかけてきて、韓国に行ったときて、新聞ができた。その後、子ども若者編集部にいたいう思いで、協力してくださったんですね。そうやって、いまは編集長です。

法律づくりへ

朝倉 メディアを使って発信することで社会に影響を

きていますね。 きていますね。 きていますね。 とも、ずいぶん長くされている社会をつくっていくことも、ずいぶん長くされている社会をつくっていくことも、ずいぶん長くされている社会をは変わらないですね。 具体的に法律や制度に市民と

奥地 法律づくりを始めたのは、2009年の日本フリースクール大会で、「フリースクールの政策提言」リースクール大会で、「フリースクールの政策提言」に、教育制度の問題です。諸外国のように、もっと多様に、教育制度の問題です。諸外国のように、もっと多様に選べるようになれば、不登校や登校拒否ではなくて、自分はそういう道でやっているということになる。そ自分はそういう道でやっているということになる。そこに踏み出さないかぎり、子どもの苦しさや親のたいへんさは変わらない。

用を払って支えている。それもおかしいし、解決しな身で、そこに通う親たちも税金を払っているのに、公身で、そこに通う親たちも税金を払っているのに、公び場の人たちも、正式ではないという意味では日陰のび場の人たちも、正式ではないという意味では日陰の

ていても、いまの制度では二重籍になっていて、在籍でいても、いまの制度では二重籍になっていて、在籍すると、何となく釈然としないものが残ってしまう。 すると、何となく釈然としないものが残ってしまう。 したんです。それまで、私たちがフリースクールを公したんです。それまで、私たちがフリースクールを公したんです。それまで、私たちがフリースクールを公い」と言われてきたんです。だから、その根拠をつくるからには、法律をつくる必要がある。

そこで、私たちが考えたのは、学校教育法のほかに「多様な学び保障法」をつくって、学校以外を選んでも社るようにするということです。学校以外を選んでも社会的にも応援され、不利益がないようにする。もちろん、最初から私たちが目指したような法律になるとは思ってませんでした。ただ、少しでも岩盤に穴を開けかった。日本社会がどれほど学校にこだわってるか、この30年間で山ほど経験してきたので、そう簡単じゃないのはわかっていました。よく「奥地さんたちが目指した法律ではないのに、それに賛成するのか」と言われるけど、何もなかったのが、一歩進んだんです。われるけど、何もなかったのが、一歩進んだんです。われるけど、何もなかったのが、一歩進んだんです。

要性とか、学校以外の場の重要性とか、子どもの意思要性とか、学校以外の場の重要性とか、子どもの意思要性とか、学校以外の場の重要性とか、子どもの意思要性とか、学校以外の場の重要性とか、子どもの意思要性とか、学校以外の場の重要性とか、子どもの意思

後化した部分、変化しない部分

ますか。 不登校への見方の変化をどのように見ていらっしゃい不登校への見方の変化をどのように見ていらっしゃい

奥地 変化した部分と、変化しない部分があると思います。変化しない部分はどうしても残っちゃうと思います。変化しない部分はどうしても残っちゃうと思います。変化しない部分はどうしても残っちゃうと思います。変化しない部分はどうしても残っちゃうと思います。変化しない部分があると思い

きたと思います。はどうか」ぐらいの受けとめ方にはなって、幅は出ては、「そういう子どももいるよね」「無理に行かせるの

ところには、なってきてますね。ところには、なってきてますね。でも、子どもの気持ちを尊重したいというと、出ているわけだから、ほんとうに学校に行かない、会に出ているわけだから、ほんとうに学校に行かない、

変わらないと思います。
「やっぱり自分はダメなんじゃないか」となってしまうところは、なかなか拭えないですが、それは、学校の学び育ちがほんとうに選べるようにならないと、

朝倉 不登校運動と言いますか、親の会の運動やフリースクール運動が、日本の教育や日本の社会を変え

ても、そうだったと思うんですね。だけど、フリースがすごく強かったと思うんです。戦後、憲法が変わっ奥地 日本では、教育はお上がやるものだという感覚

覚が、少しは広がってきたかなと思います。 親や市民たちがつくりだしてきたわけです。そういう のしゃないという感 のしゃないという感 のしゃないという感

は、ほかの社会問題でもそうですね。たとえば、性のうに、パッと散るようでは社会を変えられない。それ社会を変える元になっているんですね。線香花火のよそうやって、長いあいだずっと活動してきたことが、

たちを動きやすくした面もあるのかなと思います。

から先も継続していくことが大事だと思います。かしい。だけど、日本社会の多数の人が「そうだよね」かしい。だけど、日本社会の多数の人が「そうだよね」となるには、時間がかかる。いま、やっと不登校につとなるには、時間がかかる。いま、やっと不登校につとなるには、時間がかかる。いま、やっと不登校についる。

朝倉 ありがとうございました。最後に、この不登校

東地 2年余りにわたって、47本の記事を公開し、52 奥地 2年余りにわたって、47本の記事を公開し、52 奥地 2年余りにわたって、47本の記事を公開し、52 奥地 2年余りにわたって、47本の記事を公開し、52 奥地 2年余りにわたって、47本の記事を公開し、52

です。最後になりましたが、厚く御礼申し上げます。多くのみなさんのご寄付により実現可能となったもの意義な活動ができたと思います。このプロジェクトは、

#47 奥地圭子さん 不登校 50 年証言プロジェクト

本プロジェクトは寄付で運営し、すべ ての記事を無償で公開しています。 ご寄付のほど、よろしくお願いします。

郵便振替口座: 00100-6-22077 加入者名:全国不登校新聞社

一口 1000 円/ 3000 円/ 5000 円

不登校50年証言プロジェクト http://futoko50.sblo.jp

#47 奥地圭子さん

インタビュー日時:2018年9月6日

聞き手:朝倉景樹

場 所:東京シューレ王子

まとめ:朝倉景樹 写真撮影: 今井睦子

記事公開日:2018年10月8日 編集・発行:全国不登校新聞社 © 2018 Zenkoku Futoko Shimbun sha

東京編集局(関東チーム事務局) 〒 114-0021 東京都北区岸町 1-9-19 TEL:03-5963-5526 / FAX:03-5963-5527 E-mail:tokyo@futoko.org

大阪通信局(関西チーム事務局) TEL:050-5883-0462 E-mail:osaka_c@futoko.org

◇本プロジェクトにおける用語の取り扱いについて

校50年証言プロジェクトでは、統一した用語に整理 葉の使い方や、意味するところが異なります。不登 語が使われてきました。立場や人によって、その言 語が使われてきました。立場や人によって、その言 するのではなく 「不登校」を意味する用語は、 話し手の文脈に即して使うことと 長い年月の